

審議会等の会議結果報告

1 会議名	平成23年度第3回久居地区地域審議会
2 開催日時	平成23年11月25日(金) 午前9時30分から午前11時30分まで
3 開催場所	久居総合支所 301、302会議室
4 出席した者の氏名	(久居地区地域審議会委員) 石川裕一、井面三砂、大下幸男、大幡貞夫、川合治、川原田義之、 北村耕一郎、小瀬古喜代子、柴田房子、鈴木邦郎、津山峰子、 中西正明、前川洋子 (事務局) 久居総合支所長 中村光一、副総合支所長 奥野幸司、 地域振興課長(兼)久居体育館長 澤井尚、産業振興担当副参事(兼) 環境担当副参事 奥田俊雄、生活課長 辻富美雄、 教育委員会事務局久居事務所長 山際陽一、 地域振興課地域振興担当副主幹 上野美幸、同課主査 堤佳代
5 内容	(1) 平成22年度地域かがやきプログラム事業の評価及び平成 23年度地域かがやきプログラム事業の進捗状況について(協議) (2) その他
6 公開又は非公開	公開
7 傍聴者の数	1人
8 担当	久居総合支所 地域振興課 地域振興担当 電話 059-255-8819 E-mail 255-8812@city.tsu.lg.jp

・議事の内容 下記のとおり

地域振興課長 本日は、大変お忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。
ただいまから平成23年度第3回久居地区地域審議会を始めさせていただきます。

本審議会の情報公開につきましては、前回同様、委員個人名での掲載とさせていただきますので御了承いただきますようお願いいたします。

それでは、開会に当たりまして、総合支所長のから挨拶を申し上げます。

総合支所長 皆さん、おはようございます。

委員の皆さまには、久居まつりやひさいし榊原温泉マラソンなど、多数の事業に御参加いただきましてありがとうございます。明日も榊原温泉秋の収穫祭ということで、事業が予定されております。時間の許す限り御参加いただけたらと思います。

本日は、地域かがやきプログラムの事業の評価等について御協議いただくことになっております。どうぞよろしくお願いたします。

地域振興課長 それでは、議事に入ってください前に資料の確認をさせていただきたいと思ます。
事前に送付させていただきました資料といたしましては、事項書、二つ目に資料1「平成23年度地域かがやきプログラム事業評価シート」、次に、資料2「平成23年

度地域かがやきプログラム事業一覧表（久居地域分）」、資料3「平成22・23年度地域かがやきプログラム各事業における取組状況について（久居地域分）」、参考資料といたしまして、各地域かがやきプログラム事業の詳細な資料でございます。本日お持ちいただいておりますでしょうか？

そして、本日お配りさせていただきましたものが、「平成22年度地域かがやきプログラム事業に係る評価シート」で、本日の会議の目的となるもので、評価をお願いするものでございます。もうひとつが「各地域かがやきプログラム事業に関する追加質問書」でございます。

また、明日開催されます「榊原温泉秋の収穫祭」のチラシがございます。

なお、大変遅くなりましたが、前回10月に開催されました第2回地域審議会の会議録及び会議録概要版を配布させていただきましたので、参考までにご覧いただきたいと思っております。資料については以上でございますが、お手元に揃っておりますでしょうか？

それでは、事項書に基づきまして会議を進めていただきます。石川会長、よろしくお願いたします。

議長

それでは、本審議会の規定により議長を務めさせていただきます。

本日の委員の出席状況ですが、15名中13名の出席をいただいております。

よって、当審議会が成立しておりますことを宣言します。

続きまして本日の会議録の署名委員ですが、順番によりまして、今回は、大下委員と大幡委員のお二人にお願いします。よろしくお願いたします。

1 平成22年度地域かがやきプログラム事業の評価及び平成23年度地域かがやきプログラム事業の進捗状況について（協議）

議長

平成22年度、23年度地域かがやきプログラムの事業に関する評価ということで、先ほどもおっしゃっていただきましたが、このシートを埋めていただく作業となります。事業の数は昨年と全く同じです。大きく分けると6事業の評価と意見提言をお願いする訳ですが、これから手順をお話したいと思います。昨年と同様に当局から6事業について説明を求め、それに対する質疑応答となります。6事業ありますので、1事業15分以内で、説明を3分ないし長くても5分程度で、残り時間を質疑にあてたいと思っております。それでまだ残った時間を質問できなかった分について質問をしていただくと、それでも足りない分については、お配りしています「追加質問書」で後ほど出していただければ良いと思っております。

それから、御承知かと思いますが、評価がAからDまでございますが、昨年と変わっております。事業の説明が終わってから、事務局のほうから、昨年と違う点に

ついて説明をしていただきます。このような手順で進めさせていただきます。

議長 それでは先ず、1番目として「津市民大学 雑学人づくり塾事業」について、当局から説明をお願いします。

説明につきましては、各事業の目的、22年度どのような成果が得られたか、また、残された問題点、資料3にもございますが、我々が申し上げた意見に対して、どのように対応されたのか、改善点などがあれば御報告いただきたいと思ひます。

久居事務所長 教育委員会事務局久居事務所長の山際でございます。

冒頭申し訳ありませんが、資料に誤りがありましたので、訂正をお願いします。資料1の1ページで、2の欄の「22年度取組実績と23年度取組状況」の四角で囲ってある左の部分の講座実績で、「地区公民館での講座実績60回」と記載させていただきましたが、70回に訂正をお願いしたいと思ひます。申し訳ございません。

それでは、津市民大学 雑学人づくり塾事業につきまして、御説明させていただきます。資料1の1ページでございますが、将来的な目標は、この事業につきましては、期待する効果等は、地域の歴史や観光資源あるいは技術などのその道に精通した方から講座を通じて学びまして、次の世代に伝えようとするものです。その次の世代に伝える人を育てようとするもので、その人が地域で活躍することで、地域のコミュニケーションが活発になり、地域を活性化させようというのがこの事業の目的でございます。

また、22年度取組実績と23年度取組状況ですが、22年度では公民館では年間70回の講座をして、知識の習得をまいりました。講座の内容につきましては、参考資料の1ページに記載をさせていただいております。

なお、これらの講座の開催にあたりましては、昨年度の審議会で御意見を頂戴しまして、資料3の1ページで4点ございました。御覧のとおりまとめさせていただきました。ここで御意見をいただいておりますとおり、21年度ではテーマとか目標が定まらず、いろいろな講座で話を聞くというところで終始しておりましたため、22年度では講座の絞り込みを図ってまいりました。参考資料の1ページにありますように、それぞれの公民館で差はありますが、一定の目標なりテーマが見えてきたように思われます。中でも稲葉公民館では、民話を基にした紙芝居を作ろうという目標を持ちまして、資料集め等の作業にかかってまいりました。また、地域のガイドマップを作ろうと他の公民館におきまして、地域の歴史をテーマとするような方向ができております。23年度ではこれらの取組実績を踏まえまして、全部の公民館を対象として、人前で発表する研修会を9月22日に開催しました。この研修会では、グループに分かれまして、テーマに添って話し合いがされ、その内容をまとめ、発表をするという研修を行ってまいりました。各公民館の講座の実績は、参考資料2ページに記載をさせていただいております。地区公民館の中では、目標が早く定ま

った稲葉公民館では、地域に伝わる民話を紙芝居として完成いたしました。去る11月6日に開催されました地域の文化祭で発表されています。また、12月9日には小学校で1年生を対象にこの紙芝居を発表されると聞いております。

また、七栗公民館では七栗のガイドマップを作るということを目標に調査をされており、次年度ではこれを印刷すると聞いております。

3番目に、24年度に向けての方向性、課題につきましては、一部の公民館では、一定の形が出来つつありますので、これらの先行組が活躍できるフィールドづくりの手助けと、他の公民館にあっては講座生が目的意識を持って取り組める講座づくりを進めたいと考えております。

議長 ありがとうございます。ただ今の説明に対して、御質問御意見をお願いいたします。

北村委員 今一つ目的がはっきりしない。長期的に何人ぐらいの人を育てるのですか。紙芝居とかは地域のために発展性があると思うのですが、各公民館の競争みたいになるので意味がないと思う。津市として、久居として全体にどのようなことをやっているのかがないとテーマがずれてくるのではないかと。

久居事務所長 津市として久居としてのような大きな地域を対象としておりません。戸木公民館であれば戸木町地域といったそれぞれの特性を持った高齢者、知識人から若い世代が聞きとって、また次の世代に伝えていくなかで、若者と高齢者のコミュニケーションを地域の中で図っていく取り組みでございます。

数が多ければ多いほど良いと思いますが、地域で何人育てるのかといった具体的な目標はもっておりません。

中西委員 私も今の御意見に同感ですが、現状においてはいろいろな取り組みをやってもらっておりますが、結果はアウトプットで終わっているのですね。若い世代に地域の歴史を語り継いで、語り継がれた方が次に何をしていくのか、アウトカムですね、深く掘り下げたところで、目的をはっきりさせないといけない。語り継ぐためには、各地域に10名程度の語り部のような方がいるのだから、その方々を何年かかけて育成しようということが最終目的で、アウトカム指標であればそれをはっきりさせるのが一番良いのではないかと思います。

川合委員 受講生が21年度と22年度で約400人みえるのですが、その内オーバーラップしているのは何人ですか。約何割ですか。それと、平均年齢を大ざっぱで良いので教えてください。

久居事務所長 今回の御質問の22年度と23年度の中で、オーバーラップしている数と割合ですが、今は把握いたしておりません。次回機会がありましたら御報告したいと思います。受講生の年齢層ですが、具体的な資料を持ち合わせておりません。稲葉、七栗地域につきましては、少し高齢の方、少なくとも60代だと認識しております。

北村委員 趣味の範ちゅうの講座が多いと思います。地域を活性化するというテーマが無いように思う。目的が、趣味なのか、活性化なのかははっきりさせないといけないと思うのです。

久居事務所長 21年度の講座につきましては、趣味の域を脱していないというところは否めないところがございますが、それぞれの公民館によってはばらつきがありますが、22年度、23年度に向かって各公民館では何を目的にやるのかが、少し見えてきました。そのことから、少し的が絞られて地域の歴史を知るといふところの講座がもたれていると考えております。

議長 先ほどの川合委員の質問については、「追加質問書」と同じ考えで、お答えをお願いします。

それと、去年も話があったように、目的がはっきりしない、そこで育成をした人材をどう活用するのかということに対応できていないように思います。趣味なら趣味で良いと思います。人づくりと書くので難しいのであって、人づくりと書くのであれば、たとえば全部で防災のリーダーを造り、そのリーダーが各地域で活躍してもらおうというようにしていかないと、これをずっと続けていても苦しい答弁になるだけです。

ほかに御意見はございますか。

意見無し

議長 では、次の事業についてよろしいでしょうか。

次は、スポーツ・レクリエーション等を通じた生きがいづくりで、二つの事業が1本になっておりますが「久居まつり事業」、「サマーフェスタインひさい事業」につきまして、説明をお願いします。

産業振興担当副参事 産業振興と環境担当の奥田でございます。よろしく申し上げます。

まず、久居まつり事業でございますが、資料1の3ページをご覧いただきたいと思っております。事業の目的でございますが、市民の健全なレクリエーションの推進、ふれあい交流機会の拡充及び久居中心街の活性化を図ることを目的としております。

22年度の取組実績でございますが、春まつり、秋まつりといたしまして、「久居

彩祭」と「ひさい版仮装大笑」を行ってまいりました。また、本年度の取組といたしましては、新たに若い世代や地域からの代表者を呼び込むために、子ども神輿かつぎやメインステージでの久居昔話などの実施、久居駅から会場までの昨年度の御意見があったように、のぼりや案内看板による誘導を行っております。

また、まつりの財源といたしましては、自主財源確保を目指しまして、チラシやバックボードに広告を募集し、広告収入を得るように努めたところでございます。

今後の課題といたしましては、スムーズに運営を行うためには、スタッフが不足みでありますため、ボランティアスタッフを充実しなければならないと考えております。来年度に向けての方向性でございますが、地元住民の参加が増えるような新しい企画や会場の拡大を検討していきたいと考えております。

次に、サマーフェスティンひさい事業ですが、資料1の5ページをご覧くださいと思います。事業の目的といたしましては、夏の健全なレクリエーションを推進し、地域の観光振興、商工業の発展を通して、住民に元気と活力を与えることを目的としております。22年度の取組実績といたしましては、市民総踊りと打ち上げ花火を行い、約6万人の来場者ございました。23年度の取組状況といたしましては、イベント内容の充実を図りますために、来場者に対しアンケートを行いまして要望等の確認を行ったところでございます。花火の今後の課題といたしましては、市内の複数の花火大会について、住民の意見を参考に同事業の見直しを検討していきたいと考えております。来年度以降の方向性といたしましては、今年度のアンケートの結果を踏まえ、更に事業内容の充実を図っていきたいと考えております。

議長 今の説明につきまして、御質問御意見をお願いいたします。

中西委員 花火の来場者が毎年、20年度から5万人とか6万人とかですが、本当に6万人みえているのかどうかという話と、もう1点は一昨年あたりから財源的なことがあって、各団体等に賛助金を募っていますが、私の目に留まっていないだけかもしれませんが、決算というか、賛助金がどのように支出されたか分からないように思うのですが、そのへんは如何なものでしょうか。

産業振興担当副参事 来場者の約6万人はあくまで数をきちんと測っている訳ではなく、前年度の発表数字を参考に去年と同じかなといった感覚的なアバウトな数字で公表させていただいております。それからもう1点、サマーフェスティンひさい事業の協賛金ですが、今年は自治会さんの御協力を得まして前年度に比べ大幅に増えております。23年度の状況を申し上げますと、企業・団体さんで400件近くで400万円、自治会さん100件近くで67万円、個人は40人近くで19万円という協賛金を頂戴している状況でございます。

中西委員 今言われた決算内容はどこかで公表されていますか。5万人6万人の話はしっかりカウントしろと言うことではなく、去年の数が実績になると思うのですが、21年度から22年度に1万人増えているのは何だったのでしょうかとなりますので、計数機で一人ひとり数えろというのは無理な話でございますので、去年に比べて若干多いので6万人というレベルかなと思うのですが、その5万人が果たして正しかったのかという話になりますよね。旧久居市の人口は何人ですか。

産業振興担当副参事 約4万人だと思います。

中西委員 全部来ているとは思えないです。旧久居市以外から来ている方もたくさんみえると思いますが、この事業を定着した事業としていくのであれば、あまり過大な評価をしないほうが良いのではないかと思います。

2つ目の協賛金について実情は私も分かっていますが、各協賛されたところに結果報告が必要ではないかと思います。

産業振興担当副参事 協賛金の話ですが、協賛していただいた方々には御礼の手紙とどれぐらいの実績があったということを御報告させていただいております。

川原田委員 私が住んでいる地域はポルタひさいでございます。春まつり、秋まつり通しまして、子どもの事業が企画されましたが、二ノ町周辺だけが賑わっている。久居の駅前地域の何処へ実施の呼びかけをしてもらったのか、駅前の地区の自治会はどういう形で参加をしたら良いのかが不明なのですが、企画をされるグループや行政は、参加していない地域への呼びかけはされたのですか。2年ぐらい前によさこい等の催しが来たことがあるのですがそれで切れました。聞きますと地域から反対者が出ているということを聞きました。久居まつりの進め方について御説明願いますか。

産業振興担当副参事 会場の件につきましては、久居まつり実行委員会の前年度の反省会で、次年度はどうしていこうかというような協議をさせていただいております。その中で、現在二ノ町商店街を中心にやってもらっているわけですが、久居駅周辺にものぼり看板等を設置して地域誘導をさせていただきました。また、今後の方向性の中でも若干触れさせていただきましたが、地域の拡大について検討をしていくことを考えております。

川原田委員 実行委員の中に新町地区はどなたが参加されているのですか。

産業振興担当副参事 新町の商店連盟さんが実行委員として参加させていただいております。

川原田委員 来年は呼びかけを細かくこまめにお願いします。

議長 今の御意見は去年もありました。二ノ町に限定されているのではないかと、もっと広げるべきではないかということで、のぼりとか、子ども神輿とか工夫されているようですが、できるだけ広がりがあるようにやっていただきたいと思います。

中西委員からありました協賛金の収支報告書は出した人に報告をするのは当然でしょうが、公開性というか透明性というか、今の時代は大事だと思います。それから、人数の数え方ですが、デモでも主催者と警察発表が全然違うというようですが、プロの人が見たら分かるのですか、どこかで基準を決めておかないといけません。

鈴木委員 去年も言わせてもらいましたが、まつりの会場が場所的に二ノ町では狭いので、市役所まで広げてはどうかと提案させてもらったのですが、先ほど川原田さんが言われたように新町から人が流れるように考えてください。商店連盟の会長さんと話をしたのですが、もう少し人が集まれる場所を設定してほしいと話をしていたところです。

産業振興担当副参事 今後の実行委員会で、検討させていただきたいと思います。

議長 3つ目の活力ある温泉ゾーン形成事業、湯の瀬フラワーガーデンと花街道の説明をお願いします。

産業振興担当副参事 活力ある温泉ゾーン形成事業といたしまして、湯の瀬フラワーガーデン整備事業と花街道整備事業の2事業がございまして、まず湯の瀬フラワーガーデン整備事業でございしますが、資料1の9ページをご覧ください。事業の目的といたしましては、湯の瀬周辺の農地にアジサイ、菜の花、古代米など作付けをして、維持管理を行うことにより、「また来たい。」と思う温泉ゾーンの形成の推進でありますとか、榊原温泉郷の振興を目指すことを目的といたしております。

22年度の取組み実績といたしましては、菜の花、アジサイ、古代米の作付け管理、春には鯉のぼり吹かしの設置を行いまして、温泉利用客に対するアピールができたのではないかと思います。

23年度の取組みといたしましては、今年は天候不順でありますとか、災害がございまして、古代米の開花が思わしくありませんでしたが、来年度に向けては作付け方法の工夫を行いまして、より良い開花の促進を促しまして、更なる温泉利用客の拡大を目指していきたいと考えております。

次に花街道景観整備事業でございします。資料1の11ページをご覧くださいと思います。事業の目的といたしましては、榊原温泉への重要アクセス道路であります、久居一色町地内にあります市道庄田榊原線沿いの延長632メートルにアジサイ、

カンナ、スイセンを植栽しまして、維持管理を行うことによりまして、美しい農村景観づくりの推進を図りますと共に「また来たい。」と思う温泉ゾーンの形成推進、榊原温泉郷の観光振興を目指すことを目的とするものでございます。

22年度の取組み実績といたしましては、例年どおりアジサイ、スイセン、カンナの植栽、管理を行っております。冬季に菜の花の植栽を試験的に行いましたが、若干育成が芳しくございませんでした。本年度は、花街道のPRを目的とした案内看板を先週の16日に設置をさせていただいたところでございます。また、来年度以降につきましては、現在植栽しております品種の充実を図りまして、美しいと感じられる花街道づくりに取り組み、花のある温泉郷としての知名度を上げるとともに、榊原温泉への集客アップにつなげていきたいというふうに考えております。

議長 ありがとうございます。ただいまの事業につきまして、御質問、御意見を申し上げます。

小瀬古委員 榊原については皆さんいろいろと考えていただいております。前回の会議におきましても大幡委員がいろいろとおっしゃって見えました。このことについて、大変気になることがあります。資金面とか、運用面でも県の補助金、そういった制度もあるからそれを活用してはどうかという大幡委員の御意見だったと思うのですが、この中で、榊原地区は高齢化が進んでいてリーダーになる先頭になる者がいないということをごどこからか聞かれておっしゃって見えます。そういうことを聞いた時に、行政としてはそれで良いのか、行政の指導力がどうなのだろうかということ一度考えていただきたい。地域の活性化ですから、地域のリーダーが、先頭に立って考えるべきなのだというお考えで、地域の活力待ちというお考えなのでしょうか、他の地域の方からそのようなことを聞きますと、私どもは大変気になります。どのように地域の者が先頭に立ってリーダーシップをとってすれば、いっしょになって行政のほうもかがやきプログラムとして考えていただけるのかどうかということをごみんなで考えていただきたいと思っております。

このことについて、その後前回からの経過をどのようにお考えかお尋ねしたいと思っております。

総合支所長 榊原温泉郷につきましては、久居総合支所としても全力を挙げて対応しているつもりでおります。榊原地域の活性化という意味も込めまして、今年度につきましては旅館業者の方をはじめ、自治会等関係団体と市が参加いたします、榊原温泉郷地域活性化検討会を立ち上げまして、観光面だけでなく、山林保全であるとか、さまざまな榊原地域の振興をどうすれば良いのかを考えていただいております。そこに久居総合支所の職員だけでなく、本庁の関係所管も呼びまして、テーマごとに協議をするというようなことを今進めております。

また、榊原にリーダーがないというお話がございましたが、私は決してそのようなことはないと思います。それぞれの分野で、リードをしていただいている人材は、逆にほかの地域よりもたくさんみえるのではないかと考えておりますので、人材づくりというよりは、すでに人材はいるのではないかと思います。確かに高齢化をしてきているとは思いますが、現時点では地域を引っ張って行っていただける方はいると考えております。ですから、組織的に榊原地域をどうするのかという組織を創りましてそこで方向性を協議しており、今後も検討会を通じて議論していきたいと思います。

議長 小瀬古委員よろしいですか。

小瀬古委員 よろしくお願ひします。活性化と地域福祉が一体となってやっけていかないと、高齢化が進んでくる地域の地域福祉の推進にならないと思ひますので、私どもも福祉の部門で頑張っけていきたいと思ひますので、そのようなイメージを抱けていただかないよう頑張りたいと思ひます。

川合委員 先ほど、3者一体の組織を創られたということで、3か月に1回会議をやられて、いろいろなことを検討して行くのだということは知っけておりますが、地域外の人に対してやっけてることを情報発信していけば、インターネットで知恵を授けてくれる人があると思ひますし、また参加をしてくれる人もあると思ひます。ぜひ、あらゆる機会を利用して情報発信をしていただく。特に行政が中心となって、地域の新聞とかにPRしないと何か域内の論議で終わらないかと思ひます。支所として、地域の活性化の目玉とする気持ちがあるのであれば、もっと前へ出っけていただけて積極的に進めていただきたいと、去年意見書を出した一人としてそう思ひます。そこで、私はデザインづくりをやると提言しましたが、もっと壮大なデザインづくりを考へているのです。地域で考へてくださることは基礎となるのですが、一志も含めた地域全体をどう位置付けるかということ、その中で温泉郷はこのようなデザインをやるということを、お金が掛かるかもしれませんが、三重大学の地域戦略センターというのがありますが、そういうところとか、地域づくりの専門企業がありますが、そこで見っけていただけて誰かにデザインを創っけていただくと助かります。平成24年度の予算で、デザインを創るための委託費とかを今までの予算外で予算要求をしていただけて、活動母体を支援していただきたいと要望しておきます。

総合支所長 おっしゃるとおりでございます。私どもも同じことを考へておりまして、各地域の地域振興構想的なものがないかということで、本庁の地域振興室と協議をしております。来年度予算要求に至るかどうかが協議中ですので、何とも言えませんが、各地域、久居と一志・白山と連携したような大きなビジョンの中で、どういう役割

でどういふ団地ができるのかも含めた形の構想的なものができるらいいなというように考えておまして、地域かがやきプログラムのあり方も含めた中で検討していきたいなと思っております。来年度実現するかは今の段階では申し上げられませんが、進めていきたいと考えております。

井面委員 花街道で四季折々のきれいな花が咲くということですが、一般には知られていないと思います。広報が回ってくる頃にはちょっと遅いと思いますので、新聞に取り上げてもらうとか、NHKの地方のニュースのところで写真が出るとそれを見に行く可能性が強いです。そうすれば榊原にも足を運ぶのではないのでしょうか。

議長 その件で何かございませんか。

産業振興担当副参事 先週16日に「ここは花街道です。」という案内看板を設置させていただいたところでございます。また、あらゆる機会を通じて今後PRを図っていきたいという考えですのでよろしく申し上げます。

川原田委員 駐車場はあるのですか。

産業振興担当副参事 申し訳ございません。道路沿いですので、駐車場としてはありませんが、奥に止めておくスペースはございます。

川原田委員 60キロぐらいのスピードで走っていくので見ている暇はありません。反対側でも良いので残土で埋め立てて5、6台ぐらい止まるような駐車場の整備をしてもらうといいのですが、この整備はどういうお金で、かがやきプログラムでどうのこうのという看板を立ててもらってというのは簡単なことだと思いますからPRをしていただいたらどうですかね。

産業振興担当副参事 また一度検討させていただきたいと思っております。

議長 今の意見も昨年出まして、ちょっと休めるようなカフェとか、農村レストランとかが出ていましたが、御検討いただかないと途中で止まって見るのは難しいと思います。

それでは次の榊原温泉マラソン大会に移りたいと思っております。説明よろしく申し上げます。

地域振興課長 榊原温泉マラソン大会事業について説明させていただきます。久居体育館長の立場で御説明をさせていただきたいと思っております。資料1の13ページをご覧ください。ま

ず事業の目的でございますが、地域振興や温泉振興につなげていくとともに子どもたちの体力増進や市民の健康づくりの場にしていくということで、また別の書き方の目的につきましては、14ページに細目事業票がございまして、そこに地域住民及び市内外のランナーを対象に、マラソンを通じて市民の健康維持・増進と親睦交流を図るとともに榊原温泉の振興、風力発電のまちを全国に発信することを目的としますとございます。これはマラソン大会を実行委員会組織でやっております、その実行委員会規約の冒頭に掲げた目的でもございます。それで今年度の中期的な目標でございますが、13ページに戻りまして、中期的には何をするというところをご覧いただきたいと思えます。まず、ステップ1・2・3とございますが、順番ではなく3項目という意味合いでご覧ください。①といたしまして、応援に来場する保護者・家族等を含めた参加者の拡大、②といたしまして、温泉に入ってもらえる機会を提供して榊原温泉の良さを知っていただく、また地域からの情報発信を進める。③といたしまして、地元ゆかりのゲストランナーを迎え、小・中学生を対象とした講習会を開くなど、マラソン以外の付加価値を高める工夫を凝らしたイベントとしていくといった、三つの目標を掲げて進めさせていただきました。22年度の実績といたしましては、結果として852名でございまして、前年の21年度が851名でございまして、横ばいということになりましたが、22年度の反省を踏まえた23年度の取組といたしまして、一つ目が、地元の小・中学校を実行委員会が回りまして積極的な参加拡大を図りました。具体的には小学生は1.5キロのコースを学校でやっていると聞きまして、小学生向け専用の1.5キロコースを設定させていただくとともに、小・中学校の方は今までは参加料を500円いただいていたが無料にさせていただきました。また、温泉の入浴券を湯の瀬と旅館の関係を全てお配りして、温泉を体感していただく工夫とか、地域物産フェスティバルを今年初めて開催いたしました津地域の特産・物産の販売も併せてして、大会を盛り上げるよう進めました。今後の課題といたしまして、本年度につきましては、1,348人の参加をいただいた訳でございますが、駐車場が飽和状態で、雨でもございまして、大会の運営あるいは、今後の情報発信をどういう方向にもっていくかということが課題として残りました。

議長 ありがとうございます。ただ今の事業説明に関して御質問御意見を申し上げます。

川合委員 今年も見させていただきましたが、大変参加の人が多くなって、嬉しく思いました。その一方で、津の三大マラソン大会がありますが、シティマラソンと龍王と榊原で、財政難の時代にこの三つがますます発展するのは良いのですが、逆に財政面からすれば非常に圧迫要因で、一つの市に三つのマラソン大会が将来に亘って共存していくのだろうか、疑問に思えます。この三つのマラソン大会を話し合いで上

手く一体化したことができないのかという疑問が湧きます。マラソンに対して行政の側で今の時点でどうお考えなのか伺いたいと思います。

地域振興課長 三つのマラソンの共存のお話をいただきましたが、榊原温泉マラソンの主催者といたしましては、当マラソンは三つのマラソンの中で唯一ハーフコースを設けております。今年もハーフで想定時間を5分以上上回る方が出場していただきまして、全国のどこの大会に出ていただきましても上位入賞できるような方が参加していただきました。そういうことで、榊原温泉マラソンをやる立場といたしましては、三つのマラソンがございいますが、榊原温泉マラソンを競技マラソンの部門を生かした競技を軸に集約化をされていくことが一つの願いでございます。たとえば難しいと思いますが、龍王桜マラソンの北の方から走ってきて、南側の榊原温泉をゴール地点にするとか、これはグリーンロードを使いますので、なかなかすぐには難しいと思いますが、そういう地域を縦断するコース設定を今後それぞれの特色を生かしながら進めるなかで協議をして、相乗効果、地域間の交流が深まるような大会ができたかと考えております。

川合委員 たとえば、有名なアスリートが津シティマラソンに来ていませんでしたか。そういう方を来年は榊原に譲っていただくとかを実質的にやっていったらどうですか。グリーンロードの勾配が良いかどうか分かりませんが、連携も良い話だと思います。

地域振興課長 ゲストランナーについては、12月に実行委員会で反省会をして、来年に向けてすぐに動き出しますので、その中で来年はどんなゲストランナーを迎えたら良いかをいっしょに話をさせていただきたいと思います。

議長 ほかにいかがでしょうか。

鈴木委員 今、川合委員がおっしゃいましたが、津シティマラソンは津独自でやっただいぶお金がいるらしいです。久居の現状ではそのようなランナーを呼ぶ予算はありません。津シティマラソンと久居のマラソンが一緒になれば可能であるが、津の予算はだいぶ多いと思います。私も実行委員の一員ですので、予算の関係があるので、川合委員が言われたようなランナーが来てくれたら良いのですが、久居も狙っているのですが。

川合委員 津シティマラソンのゲストランナーの予算を久居に付けてもらえば良いのではないですか。別に予選を組むのではなく回してもらえば良い。

鈴木委員 それは譲ってくれません。

川合委員 合併したので、津も久居も全部津です。津シティマラソンを榊原でやってもよ
しい。そういうことを考えてください。

北村委員 マラソンを一本化する話はないのですか。

地域振興課長 事務レベルでは、一本化できないかという話はございますが、津シティマラソン
はハーフのコース設定ができない、榊原はコースとしては良いが、駐車場とか交通
の便が悪いので拡大はできない。一長一短があってなかなかできません。先ほど予
算の関係がありましたが、津シティマラソンは、全部で約950万円位の予算で、
久居は協賛金を集めに行くのも含めて全部で400万円位で運営しておりまして、
予算的にはだいぶ差があります。龍王桜マラソンについては、約250万円の予算
でしてみえます。

鈴木委員 今年は、人数が多く寄ってもらいました。これは地域、榊原・栗葉地区の自治会
の方が、かなり骨を折っていただきました。地域ぐるみでやっております。今後は
一志・白山・美杉も今後きてもらえるような組織を作りつつあります。中には、美
里・一志・白山・美杉を一体にしてやるように、中学校がそういうルートをもっ
ているようです。来年早々にはそのルートを使い来ていただくようにしたいと思いま
す。

川合委員さんが言われましたが、900万円と400万円では向こうはゲストラ
ンナー一人で、100万円位簡単に出せますよ。統合してやることは、向こうは津
市体育協会がやります。こちらは実行委員会ですが、上手いこと行くかは分かりま
せん。ランナーに入っていただくお湯で勝負しないといけません。今年は事務局さ
んに頑張ってくださいまして、湯の瀬も入れるようにさせてもらいました。旅館に
も協力してもらい、ありがたいことです。頑張っていきたいと思っておりますのでよろ
しくお願いします。

北村委員 温泉に入った人は増えたのですか。

産業振興担当副参事 当日の湯の瀬の情報しかありませんが申し上げます。大人で220人、子ども
で28人が温泉に入ってくださいました。湯の瀬の券につきましては、1ヶ月間有
効ですので、これからも入っていただけるのではないかと思います。

今年は初めて物産フェスティバルも同時に開催させていただきました、初めての
ことで天候も悪かったですので、非常に心配をしておりましたが、ありがたいこと
に好評で、午前中に完売するお店がたくさんありました。

中西委員 私も昨年一体化したらどうかと言わせてもらったのですが、今年の大会を見ていますと事務局、実行委員会の御尽力で、いろいろな新しい工夫をしていただくことによって、参加ランナーも増えたということでございました。これの前の項目で、温泉ゾーンの形成事業だとかいろいろな景観事業がございますが、マラソンも含めて一体のものとして、時期は多少ずれてくるとは思いますが、長期的な話としては当該地域を活性化していくための一つの起爆剤になるのではないのでしょうか。今年のマラソン大会を見ておりますとそんな感じがいたしますので、これは要望でございますが、次年度以降は今年のコピーではなくて、新しい要素を含んだ大会実施に是非ともしていただきたいと思っております。

地域振興課長 ありがとうございます。今年は結果的にたくさん集まって来ていただきましたが、同じことをしていても来年上手くいくとは限りません。実行委員会の中で相談いたしまして、毎年新しい要素を入れていく、事業の内容を新しいものを入れて変えていって、榊原の活性化の核と言っていただけるような取り組みにしていきたいと思っております。よろしくをお願いします。

議長 それでは、次の事業にいきたいと思います。ふれあい朝市の説明をお願いします。

産業振興担当副参事 榊原温泉ふれあい朝市事業の説明をさせていただきます。資料1の15ページをご覧くださいと思います。事業の目的といたしましては、生産者グループの組織を充実するとともに、地域で生産する新鮮で安心な食材を生かした観光客と地域住民の交流促進、また地元農産物の生産拡大、販売促進を目的といたしております。22年度の実績といたしましては、月2回の開催に加えまして、臨時で年3回の開催を行っております。また、温泉客を誘致するため、各旅館へチラシの配布をしたところですが、温泉客の来場者はほとんど無いため、旅館への移動販売を朝市の主催者と相談させていただいている状態です。また、来年度以降につきましては、今後の課題でもあります商品数、開催数ともに少ないことから、温泉客の増加には結びついていないというように思われますので、移動販売等を進め定期的な開催場所に足を運んでもらえるよう、誘導策や内容の充実について検討を進めていきたいと考えております。

議長 ありがとうございます。それでは今の説明に対して、御意見御質問はございませんか。

意見無し

議長 それでは次の事業も似かよった事業ですので、ふれあいの郷イベント事業の二つの事業と一緒に御意見をいただきたいと思っておりますので、ふれあいの郷イベント事業の説明をお願いします。

産業振興担当副参事 榊原温泉ふれあいの郷イベント事業でございます。資料1の17ページをご覧ください。事業の目的といたしましては、観光客や地域住民を対象に榊原温泉の観光振興と「農」を結びつけて、地域が一体となるまちおこしの気運を盛り上げることを目的としまして、榊原地域で作付けしている古代米の収穫時期に合わせ、古代米を中心とした秋の収穫祭を祝うため「秋の収穫祭」を実施しているところでございます。22年度の取組実績でございますが、昨年11月27日に湯の瀬多目的広場におきまして、地元農産物の販売、古代米すくいなどイベントを実施いたしました。また、11月8日から12月5日にかけては、**かかし**の展示も行っております。

また、本年度におきましては、先ほどのチラシにありますように、明日開催されます「秋の収穫祭」のイベント内容となっておりますのでチラシをご覧ください。

今後の課題といたしましては、イベントだけに留まらず、新たな特産品づくり、最終目標はここになろうかと思っております。特産品づくりにつなげていけるような事業展開を目指していきたいと考えております。

議長 ありがとうございます。ふれあい朝市とふれあいの郷の二つの事業につきまして、御質問御意見をお願いします。

中西委員 将来に亘っての希望的な話でございます。朝市ですが、私どもの団地の中でも数回やっていただいております。ただ評価シートの中にもありますように自家消費の余分にとれた物を持っていきましようかというレベルだと思っておりますので、地産地消ということであれば、もう少し朝市を定着させることによって、そこで販売をする生産物もそれ用に生産するべきではないでしょうか。ファーマーズマーケットあたりは持ち込みですが、直販をされております。将来的にそういう形にならないかなと私も期待しているのですが、今のところは余剰分を販売というレベルに留まっておりますので、残念だと思っております。更に申し上げるのであれば、ただ単に生産物の販売だけでなく、6次産業化というか、生産したものをハクサイであれば漬物にするなど何か加工するといった、いろいろな方法があるかと思っております。そういったことについても今、国を挙げてそういう取組みをやっておりますので、国、県の中に乗っていただけるのではないかと思います。榊原地区で生産者の方々が、いろいろ御努力いただいておりますが、そういった幅を広げた見方をしていくのも一つではないかと思います。引き続きの御努力をお願いします。

議長 ふれあいの郷イベント事業でも同じで、特産品の開発ですが、古代米は活用されているようですが、なかなかほかには出てこないようです。榊原の名物は何かと言われた時に、ここでないと何か手に入らない特産品の開発といった新しい工夫をしていかないと難しいのかなと思います。朝市も余剰分だけの販売ではと思うので、現状はいかがですか。

産業振興担当副参事 ふれあいの郷イベント事業の中で収穫祭をやっているのですが、究極の目的は特産品の開発が位置付けとなっております。最終はそこに結び付けていきたいと思っておりますが、残念なことにイベントの範ちゅうに留まっているのが現状です。イベントも大事ですが、そこから生まれるブランド作りの方法を見つけていきたいと思っております。

中西委員 ブランド作りを真剣に考えているのであれば、県の支援センターで国の支援を受けて6次産業化をやっておりますので、いつでも御相談されたらと思います。

小瀬古委員 加工品とか特産品は素晴らしいことです。収穫祭には、各個人の家が出そうという物を区会で決めて出品しますが、猿や鹿に食べられないように、家でも食べないようにして収穫祭を目指して確保しています。中西委員がおっしゃったように加工品には組織がいます。榊原の個人の家でも朝市でもこのスケールではできませんので、こういったことも実行委員会で話してお願いをすれば、素晴らしいのではないかと思います。私どもは市の支援をいただきながら、手づくりのイベントです。元気をテーマにした**かかし**も道中に立っております。他地区からの御協力をちょうだいすれば、みんなは喜ぶと思います。

産業振興担当副参事 先ほどの御意見ですが、何か特産品を作りたいという気持ちは充分ありますので、中西委員さんがおっしゃっていただきました、県へのお願いとかを含めまして、秋の実行委員会の組織を立ち上げておりますので、協議したことを実行委員会の席で諮らせていただきたいと思います。

議長 ほかに御意見御質問はございませんか。

北村委員 先週マラソンがあつて、明日はふれあいの郷イベント事業です、1週間の内2回もあり、実際に実行委員さんは重なっているのではないかと思います。一人が10歩行くより、他の人が2歩、3歩行くほうが実績が上がると思います。高齢の人が頑張っているのですから、榊原にも当然若い人がいますので、若い人が主体となって運動を盛り上げていくしかないと思います。榊原の人自身が主体的に動いていかな

いといけないと思います。我々も応援する立場上、地元がそういう意志を持たないと無理だと思います。

小瀬古委員 明日は各区から、若者といっても50代ですが、動員もかかっておりますので少し若返ると思います。

総合支所長 ありがとうございます。確かに1週間置いて事業を2回するのは実行委員会の方も重なっております、マラソン大会と収穫祭を合体することを実行委員会の中で検討いたしました、とてもいっしょには物理的に無理であると、マラソン大会では物産の部分については地元ではなく物産振興会を中心に御厄介になり、他の地域から参加いただいたという経緯がございます。榊原のイベントについても榊原地域が全力を挙げて対応していただいております。私ども行政、事務局の担当といたしましては、頭の下がる思いで、皆さん地域ぐるみでやっていただいております。もっと若い方が出ていただけると良いのですが、物理的に難しいかなと思います。市も一体となってやっていきたいと考えております。

議長 それではこれに限らず、全体を通して御質問御意見ございませんか。どの事業でも結構です。

中西委員 御礼なのですが、先週開催されましたマラソン大会では当審議会の委員さんに案内状が配付されておりましたが、私は栗葉地区の体育振興会でお知らせをいただいていた、忙しくてオープニングに行けませんでした。あのような形で先ほどもPRのことが出ており、審議会でいろいろな御意見をいただいておりますことが、これからのことになっていきます。現実に見ていただくことは大変大事ななことかと思えます。明日の収穫祭についてもそうですが、今後とも引き続き御努力をお願いします。

議長 ほかにありませんか。では、私のほうから一つ、榊原の問題については支所全体で取り組んでおられるという発言をされことについて、活性化検討会で頑張っておられるのですが、その活動が見えてこない。皆さんに周知されているのかどうか、そこが一番大きい課題かなと思うのですが。それとマラソン大会もいろんな工夫をされて今年は盛況だったということですから、他の事業についてもやりようによっては活性化するのではないかと、ふれあい朝市、ふれあいの郷事業についても湯の瀬の話といっしょで、行政では縦割りで分けてあるのですが、ひとまとまりになって、特産品は直ぐにできるものではないか、現場で努力をされておるのが何とかそこにつながれば、特産品を作るという明確な目的を持って皆さんが頑張る、活性化検討会の中に外部の方も入れて、活動が見えるようにするのが大事ではないかと思えます。

マラソン大会のように、現場で鈴木委員の話のように汗をかいているというのが分かればもっと応援しようかなという気が出るのですが、残念ながら見えてこない。いろいろ立派なことをやられているのですがそれが伝わってこないと意味がない。

昨年審議会で、いろいろな事業に関して申し上げた意見を取り入れて、特にマラソン大会は活性化されていると、まつりにしろ我々の意見が取り入れられているということで、事業を進める上で何か役に立ててほしいと思います。

次は評価シートをいつまでに出していただくかの御相談ですが、その前に、今は思いつかないが家に帰ってこの事業のここについて聞きたいというのがありましたら、追加質問書に書いていただきたいのですが、追加質問がある方は11月30日水曜日までに出していただいて、事務局から12月2日ぐらいまでに皆さんのほうに郵送させていただきます、評価シートは最終12月9日までに出していただきたいと思います。

それで、例年通りの作業ですが、皆さんから評価シートをいただいて、検討委員会で皆さんの意見を整理させていただきますので、検討委員会の皆さんは、12月20日か21日に事務局では考えているようですが、御都合が付けばどちらかでお願ひします。

評価シートのA B C Dですが、去年はAが「拡充・充実」で、Bが「現状維持」、Cが「見直し」、Dが「廃止」というランク付けだったのですが、今年はこの評価シートを見ていただいたとおり廃止はございません。A「達成できた」、B「概ね達成できた」、C「継続して実施」、D「課題克服が必要」ということで、去年と変わっていることについて事務局より御説明お願ひします。

地域振興課長 評価シートの下欄を見ていただいてA「達成できた」、B「概ね達成できた」、C「継続して実施」、D「課題克服が必要」ということで、本年度についてはこのような評価を基準とさせていただいたのですが、今まで当地域の基準につきましては独自の基準で使っていたのですが、今年度については、各地域審議会同じ基準で、同じような作業で評価をお願いしている関係から、全体的な基準に統一させていただきます。これを以て後期の基本計画の地域かがやきプログラムを進めていく上で、統一基準ですと資料としてより良いものになると思いますので、こういう形で御協力をお願いします。

中西委員 これは非常に分かりにくいのです。たとえばマラソンを一つの例に挙げますと、ある意味単年度で考えるか、もう少し中期的に考えるかによって変わるのですが、23年度だけ考えると「目的は達成できた」という評価ですとAですが、しかしながら、もう少しCの「継続して実施」というのはより高いものに実施していくのか、効果が出てないので更に「継続して実施」していくのか二通りとれるのですが、もしこれで評価をしようというのであれば、全部Cです。単年度だけ考えて良かったなというのであればAでしょうが、じゃあ達成できたからもう来年からしなくて良いの

かと誤解を招きますので、津市全体の評価基準なのでしょうが、何か注釈を付けないと単純に見ますといったい何を評価せいというのか、Dなんかは「課題克服が必要」とあるが、じゃあどうするのという話で、むしろ去年のズバリ「廃止したほうが良い」とか、「拡充したほうが良い」のほうが分かりやすいと私は思うのですが、委員の皆さまはどう思いますか。

北村委員 将来を含めての評価なのか、単年度なのか当年度の実績で良いのかの判断です。

地域振興課長 ここで想定しておりますのは、当該年度の評価ということで、想定しております。おっしゃられるとおり、来年、再来年を見て考えたらC、課題は100%無くなりませんので、長期的にみたらCとかDの評価になろうかと思いますが、ここでは22年度の単年度の評価基準を想定しておりますので、そういう形でお願いします。C「継続して実施」、D「課題克服が必要」でどうしてもこれが必要だという部分につきましては、意見提言の所の文言の部分にその意味合いを付記していただきたいと考えております。

大下委員 8件の件ですが、各テーマを見ると大きく分けて三つにしか分けられないですね。七つの公民館の活性と、二ノ町中心の久居まつりと後は榊原中心の話で、テーマ毎にどれだけやれば百点で、どこまでやれば50%なのかその目標の達成度が無いのに判定のしようがない。非常に難しいです。マラソンも参加しておりますが、去年に比べて増えたことは事実です。一つひとつの目標がどれだけで、今回の実績がどれだけ達成できたのか記載されていないと判断しにくいと思います。

川合委員 私も評価方法が、従来のA B C Dと一般の共通の4項目と細目事業票にもありますが、非常に見づらいです。逆に統一すると「廃止」が無くなったということで、たとえば廃止論があるとすればDですが、Dが3年続くとあかんとか、5年間続いたらアウトだとか、何かそこにはないとこの評価は一体何なのですかということになる。Dの中に廃止論をいれるのであれば、表現として表すということになると思いますが、Dが何年か続いたらだめだという評価をしないと、次の5年間も同じことがずっと続く可能性があります。

地域振興課長 川合委員さんの御意見で、今の時点でDの「課題克服が必要」で、事業廃止の想定でございますが、前期基本計画の5年、後期が5年ということで、3年目の中間見直しの時は事業廃止を想定しておりませんでした。5年間事業をやってそれに見合う効果が得られない場合は、後期基本計画に移行する中で、効果が上がらない事

業については、廃止することを当初から想定させていただいておりました。ただ、3年とか事業開始から何年間という想定はしておりません。久居地域の事業だけでなく他所の地域の事業も含めて、5年目で後期の計画を作る時に効果の上がらない事業とか、発展的に他の事業に変えていかなければならない事業についてはその時点で廃止になるというように考えております。

議長

ほかにA B C Dについて御意見はございませんか。

事務局としては、平成22年度単年度でA B C Dの評価をしてくださいとのことです。いろいろな考え方はありますが、問題は横の意見提言です。たとえば廃止してこのように変えたらどうかというような意見も出てこようかと思うのですが、そのへんが大事かと思えます。評価は全市統一のA B C Dで評価をお願いします。

細目事業票で成果指標を上げていますが、たいがい達成していたらもういいやないかということになります。そこらへんが難しいですが、逆に言えば行政が「皆さんに評価をいただきましたよ。」ということで終わるのか、一つの事業の成果を評価するのに一つの成果指標では無理です。いろんな面から評価をしないといけないでしょうから、数字に表れなくてもいろんなことがあればこれから期待することもあるでしょうし、できるだけ各委員の皆さまには横の欄の意見提言で書いていただくしか仕方がないのでは、それが限界かなと思えます。12月9日締切で事務局まで出させていただくようお願いします。それを受けまして検討委員会でいろいろ議論をさせていただきまして、皆さまからいただいた意見を整理させていただいて、次回の審議会1月下旬ぐらいになろうかと思えますが、その時に報告をさせていただきます。

それで、検討委員会の日程は事務局の都合により、12月の20日か21日どちらかに委員の方はお願いしたいと思えます。

地域振興課長 今後の予定といたしましては、12月9日までに評価シートを出していただきまして、その後事務局で皆さんが評価していただいたものを一覧にまとめまして、12月の20日火曜日か21日水曜日に検討委員会をもっていただきたいと思えますのでよろしくお願ひいたします。検討委員会で揉んでいただいて、第4回の地域審議会を1月の下旬頃になると思えますが、評価結果の御報告をさせていただきたいと思えます。

議長

全体を通じまして、本日の議題以外でも結構ですので、この際何か聞いておきたい事とか、御意見がございましたらお願いします。

小瀬古委員 20日、21日の検討委員会で、この事業は廃止であるという極端な意見がでるかどうかわかりませんが、出た時に、1月の下旬の第4回の地域審議会でもた元に戻るとか修正できるとかの余裕はありますか。

議長

もちろん原案ですから、決めるのは次の審議会で決めます。

皆さんの意見を整理してこのような意見ができました、という御報告ですので、それで全部決める訳ではありません。

議長

御意見もないようですので、今回は来年ということで、本日の事項はこれで全て終了とし、第3回地域審議会を閉会させていただきます。どうも長時間ありがとうございました。